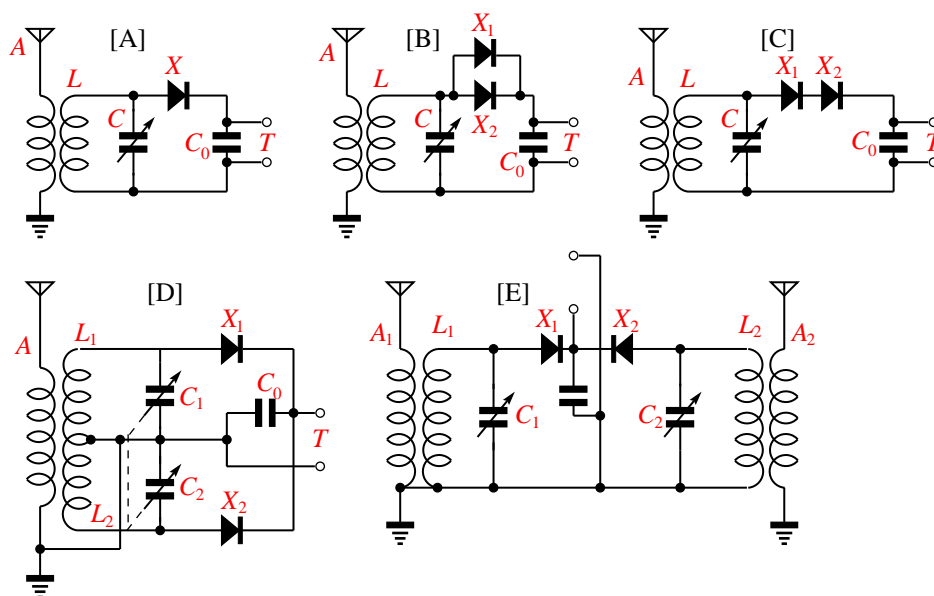


ていねいな鉱石セット



鉱石受信機ではスピーカーはならない。ただ電波が非常に強いところがかすかになったということはあるが、一般にはそうはいかない。受話器を二つにしてせいぜい二人で聞くのがせきの山でしょう。そこでなんとかしてもっと大きくならないものかとラジオがはじまった頃からもう頭のよい？ 研究者たるアマチュアがB, C, D, E図に示したような回路のものを作ってみました。勿論それぞれ理由はついています。まあ読者諸君の中で興味をもたれる方は一つ作ってみられるのもよいでしょうし、先ず第一依然としてA図のように鉱石が一つ使われている回路なるものが使われているのはなぜだろうと机上で研究してみるのもよいでしょう。

PDF 化にあたって

本 PDF は、

『無線と実験』1947年11, 12月合併号

を元に作成したものである。

PDF 化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館 (<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。